

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

科目名	在宅看護概論				
科目分類	統合分野	履修年次	1 年次	履修時期	12月 ~ 3月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時限	試験時間	2時限 90分 100
担当教員	梅田 育代	実務経験	あり		
科目目的	在宅看護の機能・役割を学び、社会資源の活用と保健医療福祉チームの在り方を理解				
学習目標	1. 在宅看護の現状から、在宅看護の目的や特徴を考察することができる。 2. 在宅看護の対象者の特徴について説明できる。 3. 地域包括ケアシステムを構成する関係機関・職種との連携と、看護が果たす役割を理解することができる。 4. 在宅看護に関わる法令・制度を理解することができる。				
授業計画	回	授業内容(教科書該当ページ)			授業方法
	1	1. 在宅看護の目的と特性 (P2~6、10~16、国民衛生の動向使用) 1) 在宅看護の社会背景 2) 在宅看護の目的・特徴 …生活を重視する①			講義 協同学習(ペアワーク、TBL、ジグソー学習など) ※9回目以降のグループワークの事前課題を冬期休暇に取り組み、冬期休暇明け提出。
	2 3 4	3. 在宅看護の対象者と権利 1) 対象者の特徴 (P26~36) ①年齢 ②疾患 ③障害 ④状態別・健康レベル 2) 家族 (P39~50、165~166、国民衛生の動向使用) ①介護家族の状況 ②介護負担、虐待 ③家族に関する理論 ④家族アセスメント 3) 在宅療養の成立条件 4) 療養者の権利 (P158~164、166) ①自己決定への支援 ②在宅ケアでの意思決定に関する倫理的諸問題 A.成年後見制度			
	5	4. 在宅ケアを支える制度 (P78~90) 1) 社会資源を活用する看護師の役割 2) 医療保険制度、介護保険制度 3) 障害者総合支援法、難病法 4) 医療介護総合確保推進法			
	6 7 8	5. 在宅療養の支援 (P52~73) 1) 継続看護(退院調整・退院支援) …生活を重視する② 2) ケアマネジメント			
	9 10 11 12 13	3) 関係機関と職種、保健・医療・福祉の連携 ①釧路の地域を理解する ②地域で生活する人々に対する看護の役割を考える (在宅看護の役割)			

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

14	4)地域包括ケアシステム、地域包括支援センター(P17~20) 5)在宅ケアにおける多職種の役割、連携	
15	試験	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

<p>使用教材</p>	<p>系統看護学講座 統合分野 在宅看護論:医学書院 国民衛生の動向 2020/2021:厚生労働統計協会</p>
<p>参考文献</p>	<p>①ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア:メディカ出版 ②新版 在宅看護論:医歯薬出版 ③場面で学ぶ 在宅看護論:メディカ出版 ④よくわかる 退院支援 : 学研</p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>80%:筆記試験 20%:事前学習の提出・内容 GW(GW中の態度、提出資料、発表内容・態度、参加態度、質疑応答など)</p>

目
点

科目名		在宅看護援助論 I (在宅看護活動)			
科目分類	統合分野	履修年次	2年次	履修時期	5月～7月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	14時間	試験時間	1時間
担当教員	専任教員、非常勤講師	実務経験	臨床実務経験あり		
科目目的	在宅看護を提供する場における看護の内容や特徴を学び、在宅看護活動を理解する。				
回	授業内容				授業方法
1	1. 訪問看護の制度 1) 訪問看護の利用者と訪問回数 2) 訪問看護ステーションに関する規定 3) 訪問看護利用までの手順 4) 訪問看護の費用 2. 訪問看護サービスの提供 1) 管理・運営 2) 訪問看護の役割				講義 協同学習
1	1. 在宅看護過程の展開のポイント 1) 対象者の生活と価値観の多様性の尊重 2) 環境や家族への視点、時間への着目 3) 生活を支える制度、支援体制の理解 2. 在宅看護過程の展開方法 1) 在宅看護過程の目的・意義 2) 在宅看護過程の特徴 ① 医療の側面と生活の側面 ② 強みと弱み 3) 情報収集とアセスメント ① 総合的機能・・・疾患・医療的ケア、環境、活動、理解・意向 ② 強みと弱み 4) 健康課題の明確化 ・・・問題解決着眼型、リスク着眼型、強み着眼型(ウェルネス) 5) 目標の設定・計画 ① 長期目標・短期目標の設定のポイント ② 在宅看護計画の立案のポイント 6) 実施と評価 ① 行動計画・手順、的確な援助の提供 ② 訪問看護の記録				講義 協同学習
5	6. 他職種との連携 ① 在宅における連携の特徴 ② 医師との連携 ③ 介護保険の社会資源との連携 ④ ネットワークづくり ⑤ 入退院時における医療機関と訪問看護連携				講義
6	7. 在宅看護における安全性の確保 ① 在宅看護におけるリスクとは ② 医療事故防止				講義
7	③ 感染防止 ④ 療養生活上の安全確保 試験				講義
使用教材	1. . 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

<p>参考文献</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア(メディカ出版) 2. 強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図 (医学書院) 3. 関連図で理解する 在宅看護過程 (メヂカルフレンド社) 4. 在宅看護過程演習ーアセスメント・統合・看護計画から実施・評価へー(クオリティケア)
<p>成績評価の方法</p>	<p>筆記試験85点、講義内での課題への取り組み、提出物、出席態度など 15点</p>

科目名	在宅看護援助論Ⅱ(日常生活援助・状態別看護)				
科目分類	統合分野	履修年次	2年次	履修時期	10月～2月
単位(時間数)	1単位(30時間)	講義時間	28時間	試験時間	2時間
担当教員	専任教員	実務経験	在宅看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	在宅療養者の状態に応じた看護を学び、援助を実践する能力を身につける				
学習目標	1. 療養者と家族の生活行為に即し、創意工夫をして援助を実践する知識を身につける。 2. 在宅で治療の継続を必要とする療養者と家族への援助技術を習得する。 3. 状態別看護において在宅の展開のポイントを理解することができる。				
回	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅で看護を展開するにあたって 2. 在宅で求められる看護技術 1) 呼吸機能に関する在宅看護技術 ① 在宅看護における呼吸管理・ケアの特徴 ② 呼吸機能アセスメント ③ 呼吸機能への介助のポイント 2) 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 ① 在宅での食生活の特徴 ② 食生活・嚥下に関するアセスメント ③ 食生活・嚥下への介助のポイント ④ 嚥下訓練			講義	
2	3) 排泄に関する在宅看護技術 ① 在宅での排泄の特徴 ② 排尿のアセスメントとケア ③ 排便のアセスメントとケア 4) 移動・移乗に関する在宅看護技術 ① 在宅での移動・移乗の特徴 ② 移動・移乗のアセスメント ③ 移動・移乗の介助に関するポイント (環境整備、生活リハビリテーション)				
3	2) 清潔に関する在宅看護技術 ① 在宅での清潔援助の特徴 ② 清潔に関するアセスメント ③ 清潔の介助に関するポイント			講義 グループワーク	
5	3. 特殊な技術を伴う在宅看護 1) 経管栄養 2) 在宅中心静脈栄養(HPN) 3) 在宅持続皮下注入法			講義	
6	4) ストーマケア 5) 膀胱留置カテーテル 6) CAPD療法			講義	
7	7) 褥瘡ケア 8) 吸引			講義	
8	9) 在宅酸素療法(HOT) 10) 在宅人工呼吸療法(NPPVなど)			講義・事例検討 グループワーク	

釧路労災看護専門学校 授業計画(シラバス)

回	授業内容	授業方法
9 10 11 12 13 14 15	4. 状態別在宅看護・看護過程の展開 1) 脳血管疾患 2) 認知症 ① 服薬管理 3) 難病 ① 緊急時・災害時の対応 試験	講義・事例検討 グループワーク 講義・事例検討 グループワーク 講義・事例検討 グループワーク
使用教材	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院	
参考文献	1. 写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真と動画で学ぶ(インターメディカ) 2. 看護実践のための根拠が分かる 在宅看護技術(メヂカルフレンド社) 3. よくわかる 在宅看護(学研) 4. 関連図で理解する在宅看護過程(メヂカルフレンド社) 5. 強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図(医学書院)	
成績評価の方法	筆記試験100%	

科目名		在宅看護援助論Ⅲ（終末期の看護）			
科目分類	統合分野	履修年次	3年次	履修時期	4月
単位(時間数)	1単位(15時間)	講義時間	15時間	試験時間	なし
担当教員	専任教員	実務経験	在宅看護領域臨床実務経験あり		
科目目的	終末期にある在宅療養者とその家族へのQOLの維持・向上を目指したケアを学び、看取りの看護を理解する。				
回	授業内容			授業方法	
1	1. 在宅終末期看護の特徴・役割 2. 在宅終末期看護の展開 1) 在宅移行時 2) 終末期前期 3) 終末期中期 4) 終末期後期 5) 在宅での看取り 6) グリーフケア 3. グループワーク説明… 事例検討グループワーク			講義	
2	事例検討のグループワーク			グループ討議	
3	事例検討のグループワーク			グループ討議	
4	事例検討のグループワーク			グループ討議	
5	事例検討結果の発表・質疑応答 事例検討の講評・考えるポイント			講義	
6・7	事例検討結果の発表・質疑応答 事例検討の講評・考えるポイント			講義	
7	在宅ターミナルケアの実際			講義	
使用教材	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院				
参考文献	1. ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 2. 在宅看護論 実践をことばに第6版 ニューヴェルヒロカワ 3. 知識が身につく！実践できる！ よくわかる在宅看護 学研 4. 関連図で理解する 在宅看護過程 メヂカルフレンド社 5. 在宅ターミナルケアのすすめ 日本看護協会出版会 6. 訪問看護のための事例と解説から学ぶ在宅終末期ケア 中央法規出版 7. 演習・実習 在宅看護論 医歯薬出版				
成績評価の方法	事例検討グループワーク60%(個人レポート(★)10点、グループでの提出物の内容(★)・締め切りの遵守24点、グループの発表・質疑応答など6点) 講義後のレポート(★)30% (★)の提出物は実習評価表の評価項目の内容で評価する 講義態度10%				